

番号	区分	委員の発言内容
1	H29実績 (暮らしに身近な森林整備事業(鳥羽市))	整備面積が11haと広い面積であること考えると、他の事業に比べて突出して高いとは思わないが、単価は明細を見てみないとわからない。 個人が管理できなくなった竹林などを部分的に手放せるような仕組みがない。適切に管理ができなくなった森林について、誰かが手を入れるという仕組みはあっても良いと思っている。今後は、国の制度(森林環境税)がその部分をカバーするのではと理解している。
2	H29実績 (記念樹配布事業(鈴鹿市))	写真2に掲載している記念樹の一例と実際に配布した樹種が違っているが、そのことがわかりにくい資料だった。税の用途として街の緑化は含まれているのだが、「三重県の木のぬくもりを感じてほしい」としながら、なぜ配布樹種にオリーブが含まれているのか疑問に思う。なぜこの木を配布しているのかといった説明を加える必要がある。
3		植木まつりの時に記念日があるとは限らないし、無料で配布されたものを大事に育てられるとは考えにくい。
4		配った木がどういう風に植えられているのか、育てられているのかといったフォローアップがあると良い。例えば、写真をホームページにあげてもらおうなど。
5	H29実績 (美里水源の森整備事業(津市))	山の中に真っ白な道があるのは違和感がある。遊歩道はカラー舗装などで違和感のないように行えば、もう少し印象も変わったのではないと思う。
6	H29実績 (茶葉振興センター移転整備事業(木質化)(四日市市))	公益性(波及度)として年間利用者5,000人と記載されている。数字だけで表現すると、数字が独り歩きしてしまう。現実的には、小中学校の社会見学などで利用された場合、子どもを通じて家族への波及効果があると思うので、そのような表現をする方が良いと思う。
7		写真を見る限りでは、温かみのある空間とは思えない。木質化するのであれば、もう一工夫できたのではないと思う。
8	H29実績 (長原保育所改修事業(度会町))	税の目的は、「木材の利用を通じて、林業を含めた関係者(業者)の発展を目指すこと」だと思っている。県産材を利用することで、どれくらい森を取り巻く地元の関係者に利益が還元されているのか、ということを以前から疑問に思っている。
9		税の目的には、事業者への還元は考慮されていないと思う。「木材を利用していきましょう」ということは用途にはあるが、必ずしもこれで還元しなければいけないともなっていない。林業関係者から還元してほしいという声もあるが、難しいと思う。 経済波及効果について、地域材と輸入材を比較した研究があるが、地域材を使うことによる経済波及効果はあるとの試算がされている。
10		今回の議論の対象にはなっていない(税の趣旨からははずれるかもしれない)が、単価や納期、供給能力の問題もあろうかと思うが、県内の産業振興のためにも県内事業者を活用してほしいと思う。これらの事業者も納税者であるので、配慮していただけるとよい。
11	H29実績 (菰野富士ふるさとの山環境整備事業(菰野町))	バリアフリーの木道とのことだが、「美里水源の森整備事業」と比べると、一方(美里)はコンクリートの遊歩道を、一方(菰野)は木道の遊歩道を整備している。一部にもっと木を使うとか、予算とバランスをとるなど、いろいろなやり方があるだろうと思うので、もう一工夫できるのではないと思う。全体としての景観への配慮など、考える余地があると思う。
12	H29実績 (病院備品等購入事業(桑名市))	クッションのついたソファを導入しており、脚だけに木が使われているように見受けられるが、木材利用の事業については、木材を使えば何でもできる仕組みではなく、例えば、使用材積に応じた支援などの基準があるとよい。
13	最終案	(説明を受けて)対策4「木の薫る空間づくり」が見直されて、これまで実施されてきた集会所や病院での取組、木造住宅建設に対する補助は対象外になると理解した。

注)第2回評価委員会での議論の中で、論点となった主なご意見を抜粋して整理しています。